

## どこまで安全か何が危険か

物質生命化学科 西山勝彦

### 1. 緒言

1年の前期に開講されている「化学と安全」は座学ではあるが、主に国家試験である「危険物取り扱い免許」の取得を目的とした比較の実用的な講義であり、物質生命化学科としては非常に重視している。

この「化学と安全」で得た知識を実際に体験して、より「危険物」への理解、認識を深めることが本プロジェクトの最大の目的となる。「化学と安全」ではこれまで危険物第四類に関わる座学としての講義を行ってきた。危険物第四類は物質生命化学科の学生が研究室配属後にも最も頻繁に扱う危険物でありながら、学生あるいは教員にも「危険物」であるとの認識がそれほど高くない状態にあった。このプロジェクトでは一年生をできるだけ少人数のグループに分けて、これまで学科内あるいは他の学科、大学で起こった発火事故の実例を「安全に」体験させて、「危険物への認識」および「初期消火の実際」を体験させることを目的とする。また、熊本市消防庁から講師を招聘し講義を受ける。

### 2. 実施概要

52「煙の危険性」1ビル火災からの身の守り方1

熊本市中央消防署

指導課 予防課長

消防司令 金田昌弘氏

場所：総合研究棟 MM1648



62「有機溶媒などの発火、消火の実際」

場所：総合研究棟 MM1648

國武助教授、坂田助手-

72第4類溶媒の発火、引火実験

場所：物質生命化学科実験室

澤田助教授、緒方助手、西山、XE-

82「火災、地震の実体験」

場所：熊本市広域防災センター

現地集合、現地解散 6/19 西山-

92「実験中に潜む危険（4類以外の危険物質に関する実験）」

場所：物質生命化学科実験室

澤田助教授、緒方助手、西山、XE-



### 3. 感想

本プロジェクトでは危険物取扱者の国家試験に合格するための講義であった「化学と安全」に「講演」、「実験」、「見学・体験」を組み込んだ。講演の際には若干眠そうにしていた学生も発火、引火などのインパクトのある実験では殆どの学生が興味深そうな表情で行っていたのが印象的であった。彼らの今後に期待したい。